

第20回学会大会報告

第20回日本レクリエーション学会大会は平成2年11月10日(土)、11日(日)の両日にわたり、明治大学附属中野高等学校を会場にして開催されました。『生涯学習時代のレジャー・レクリエーション』を総合テーマとし、「人生80年時代をいかに生きるか」について議論が進められました。初日10日には中央大学教授小塩節先生による基調講演に始まり、稲垣良典氏、佐藤敏夫氏、野中ともよ氏等を迎えての2時間にわたるシンポジウム、そして翌11日には25題の研究発表と、積極的な参加者の方々に支えられて全てのスケジュールを終了しました。

基調講演、シンポジウム、研究発表の演題および演者は以下の通りです。

■ 総合テーマ

《生涯学習時代のレジャー・レクリエーション》

■ 基調講演

「生活文化としてのレジャー・レクリエーション」

講 師 小 塩 節 氏 (中央大学 教授)

■ シンポジウム

「学習社会におけるレジャー・レクリエーション」

パネラー	稲 垣 良 典 氏	(九州大学 教授)
	佐 藤 敏 夫 氏	(東京神学大学 教授)
	野 中 ともよ 氏	(中京女子大学 客員教授)
司 会	松 田 義 幸 氏	(学会常任理事)

研 究 発 表

= A 会 場 =

- A-1 レジャー時代の余暇教育
○久川 太郎 (流通経済大学)
- A-2 ヨハン・ホイジンガのプレイ論に関する歴史的研究
○杉浦 恭 (筑波大学大学院研究生)
- A-3 東洋的身体観に基づくレクリエーション概念分析の試み
○芳賀 健治 (東京家政学院大学)
- A-4 「レクリエーション指導」概念の変遷と展望
○千葉 和夫 (日本社会事業大学)
- A-5 ニュージーランドにおけるガーデニングのレクリエーション的価値
○杉尾 邦江 (プレック研究所)
- A-6 自然意識(2)
○塚本 圭一 (大阪薫英女子短期大学)
- A-7 キャンプ経験による児童の自然観の変化
～連想法を用いて～
○中野 友博 (筑波大学)
- A-8 冒険キャンプ経験が児童の一般性セルフ・エフィカシーに及ぼす影響
○関根 章文 (筑波大学大学院)
- A-9 キャンプに対する高齢参加者の意識
～キャンプ参加高齢者の不安を中心として～
○中島 一郎 (国際武道大学)
- A-10 神奈川県における盲人卓球
～練習を支援するボランティアを中心に～
渡辺 文治 (神奈川県総合リハビリテーションセンター)
- A-11 生涯学習社会に向けての生涯学習システムとしての地域生活文化
～山形・黒川能を支える人々の生活史研究をモデルとして～
梅澤 佳子 (日本航空レジャーライフ研究所研究員)
- A-12 転換期における国民体育大会の意義と役割に関する調査
～特に生涯スポーツの振興事業としての観点から～
○鴨井 啓 (大竹総合科学専門学校)

= B 会 場 =

- B-1 「歩くスキー」の概念の明確化に関する一考察
○三浦 裕（北海道教育大学）
- B-2 100キロハイクに関する研究
○佐藤 初雄（国際自然大学校NOTS）
- B-3 ホノルルマラソン完走者の満足要因の分析
～日本人完走者を対象として～
○松本 耕二（鹿屋体育大学大学院）
- B-4 地域におけるスポーツイベントの研究(1)
～菜の花マラソン完走者の満足要因の分析～
○野川 春夫（鹿屋体育大学）
- B-5 地域におけるスポーツイベントの研究(2)
～ボランティアの継続意欲を規定する要因の分析～
○長ヶ原 誠（鹿屋体育大学）
- B-6 地域におけるスポーツイベントの研究(3)
～地域ビジネスとの関連から～
○菊池 秀夫（鹿屋体育大学）
- B-7 成人男性のライフステージから見たレジャー・ライフスタイル
○川西 正志（鹿屋体育大学）
- B-8 成人男性の旅行型レジャー実施者のバケーション・ライフスタイル
○北村 尚浩（鹿屋体育大学）
- B-9 スポーツにおける若者（女子）のライフスタイル
○梅津 迪子（女子聖学院短期大学）
- B-10 現代青年（女子）のスポーツ意識・行動の傾向について
○松浦 三代子（東京女子体育大学）
- B-11 女性の余暇活動参加歴に関する研究
○三宅 基子（日本レクリエーション協会）
- B-12 リゾート地におけるレジャー・ダイバーの意識について
○千足 耕一（筑波大学大学院）
- B-13 民間スポーツクラブの将来予測に関する研究II
～成熟期におけるスポーツクラブ運営への提言～
○富山 浩三（大阪YMCA社会体育専門学校）